

## 研修報告書No.10

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立沖の島へき地診療所

私は東京都で生まれ育ち、神奈川県横浜市で研修をしています。この度初めて高知を訪れ地域医療研修をいたしました。地域医療研修を通し、これまでの育ってきた環境やまた研修病院と、住んでいる人口、世代、生活、そして提供する医療の形態が大きく異なることを学びました。

最も印象に残ったのは沖の島へき地診療所でした。沖の島は高知県西南部に位置する宿毛市にある離島で、本土から定期船で約1時間の場所にあります。澄んだ海がとても美しく、島全体で住民の仲が良く、笑顔のあふれる魅力的な島でした。診療所は週に4日の診療日があり、県内から交代で医師が診療に訪れていました。私も基礎疾患を多く持った患者さんを診察し、血圧や血糖値が軽度増悪しているケースに出会いました。最近では宴会が多いなど、食生活が乱れており、今後はもう少し気を付けるとの事で食事指導を行いました。離島の医療で最も重要となるのは問診や身体診察であり、少ない医療資源の中で自分自身が行える医療のベストを尽くし、目の前のひとりひとりの患者さんに真剣に向き合う必要があります。薬をたくさん提供する医療ではなく、患者さんひとりひとりに合わせたニーズで医療を行う必要があると感じました。沖の島では医師不在の日でも診療を行えるような遠隔医療(Telemedicine and Telecare)も活用されていました。私が沖の島を訪れた日は台風が接近しており、定期船の出航が危ぶまれました。このような日にも医師と患者間にある地理的・時間的制約を越える医療が可能となり、医療過疎や偏在による地域的医療格差の解決が期待できると実感しました。住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らすために重要なツールのひとつであると感じました。

そして大井田病院で研修を行いました。大井田病院は一般病棟50床、療養病棟43床の地域の中核を担う病院です。常勤医師は5名とかなり少なく驚きました。ここでは病棟や外来業務だけでなく、訪問診療や訪問看護、特別養護老人ホームでの回診や地域包括支援センターで研修を行いました。私の研修病院では、肺炎で入院した高齢の患者さんに対し、急性期治療を行い自宅退院する場合や家族が不安や独居のケースではケアマネージャーさんに転院調節をしていただいております。退院後や転院後の患者さんに触れる機会は全くありませんでした。高齢者では短期間の入院でも体力が落ち、入院前の日常生活に戻れないことがほとんどです。今回訪問診療や訪問看護、地域包括支援センターで研修を行い、多職種の人がひとりの患者さんに関わり、入院中からリハビリや自宅環境の整備、通院が

困難であれば訪問診療や看護の導入、多職種カンファレンスでは病院のコメディカルが地域のケアマネージャーに報告するといった連携を見ることができました。地域全体で患者さんがいつまでも自分らしく暮らせるような取組みに大変驚きました。訪問看護では自宅に帰ることができうれしそうな患者さんやその家族に会い、不安なく自宅生活を行う事が出来ていることの素晴らしさを実感しました。

最後に渭南病院で研修を行いました。渭南病院は県西南端に位置し、土佐清水市には公立病院がなく地域の中核病院となっています。渭南病院は一般病棟50床、療養病棟55床で常勤医師は4名です。地域の中核を担う病院では専門性ではなく、幅広い医療を提供することが求められます。また訪問看護や訪問診療など地域全体で医療の基盤を作るシステムが発達しており、今後の高齢化社会において地域に関わらず重要になると学びました。